令和４年度認定

家賀集落【つるぎ町】

◆けかしゅうらく

にし阿波の傾斜地農法から生まれた、「食べる藍」の魅力で歴史ある集落を再生し、未来に残す

剣山系北斜面側の一角、国内最大規模の急傾斜地である旧貞光町の地域にある家賀集落では、昭和初期まで家賀地区で栽培されていた「藍」栽培を、シニアが活躍する住民団体が地域活性化・雇用創出のために復活させた。

かつては藍栽培・養蚕・葉たばこ栽培で栄えた集落であったが、年々過疎化が進み、耕作放棄地や荒れた山林が増え、美しかった山村景観が失われていく状況にあった。

平成30年、急斜面で農作物を育てる伝統農法が「にし阿波の傾斜地農耕システム」として国連食糧農業機関から世界農業遺産として認定を受けたことがきっかけとなり、「集落を未来に残したい」という想いから、藍染め職人やツアーガイドら60歳代から70歳代の有志が集まり、「家賀再生プロジェクト」が結成された。

1000平方メートルに及ぶ耕作放棄地を手入れしながら、世界農業遺産にも認定された「にし阿波傾斜地農法」を用い、再び藍の収穫を実現。栽培した「藍」から生まれた食用の「藍の粉」は、徳島剣山世界農業遺産推進協議会が認定する世界農業遺産「にし阿波の傾斜地農耕システム」ブランド認証品として認証を受けるとともに、地域の和菓子店、素麺業者や米穀店と連携し「食べる藍」として流通している。他方で、家賀地域を2時間で回る観光ツアーにも取り組んでおり、人的交流・関係人口の創出にも努めている。

家賀再生プロジェクト

- 住所／〒779-4107　徳島県美馬郡つるぎ町貞光家賀道上474
- 代表・発起人／枋谷　京子　●連絡先／090-5144-4896
- HP／https://peraichi.com/landing_pages/view/keka-playback-project

（写真上）家賀のエリアは、東から登る太陽光がちょうど傾斜している畑に、まんべんなく当たり、また水の滞留もなく、大自然の恵みを利用した循環が成立している。

（写真下）かつて藍の栽培が盛んだった「つるぎ町家賀地区」で、「食べられる藍」を作りたいと藍の栽培をスタートした家賀再生プロジェクト代表の枋谷京子さん。蓼藍（たであい）の畑には刈り取った茅や、落ち葉が敷き詰められ、化学肥料も農薬も使用しない。体に良い藍を安全・安心に届けたいと生産、販売を手掛けている。